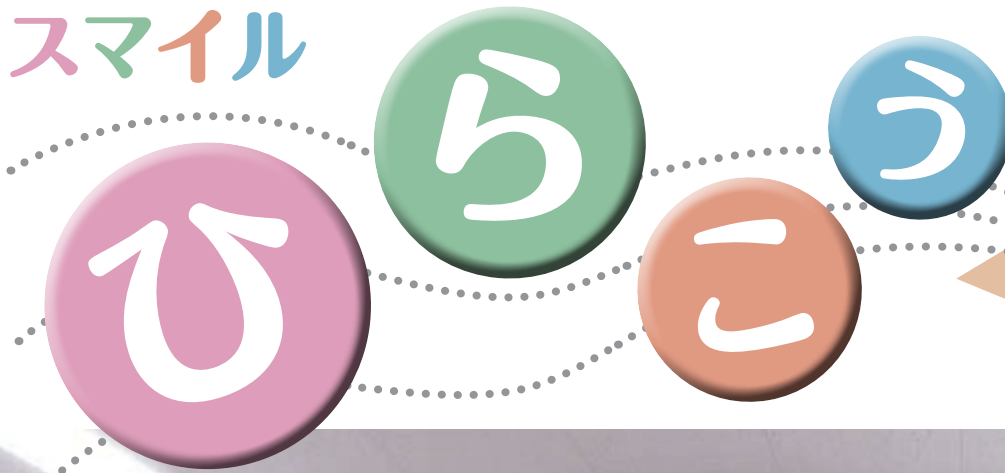


スマイル



特集

第9回 枚方消化器疾患談話会

新任挨拶／放射線技師から①／エキスパートナース②／がんサロン「くらわん家」開設／BLS活動 vol.4／副院長のひとり言③／総合診療とERを考える会

第9回 枚方消化器疾患談話会



枚方公済病院 副院長
田中 満

枚方公済病院近隣の先生方と消化器疾患に関する診療の連携を深めようと、平成18年に藤平 亨先生、奥田正浩先生、垣内成泰先生、浦 正道先生方に世話人として参加していただき、枚方消化器疾患談話会を立ち上げました。細々と始めた会も9回を重ねることができました。今年は40名を超える参加があり盛況に終わりました。日常の診療で消化器疾患は馴染みの多い領域ですので、まだご参加いただいていない先生方にも関心を寄せていただけるよう本会を充実させていこうと考えております。今後ともご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

枚方公済病院近隣の先生方と消化器疾患に関する診療の連携を深めようと、平成18年に藤平 亨先生、奥田正浩先生、垣内成泰先生、浦 正道先生方に世話人として参加していただき、枚方消化器疾患談話会を立ち上げました。細々と始めた会も9回を重ねることができました。今年は40名を超える参加があり盛況に終わりました。日常の診療で消化器疾患は馴染みの多い領域ですので、まだご参加いただいていない先生方にも関心を寄せていただけるよう本会を充実させていこうと考えております。今後ともご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

参加者 計53名

第9回 枚方消化器疾患談話会

【大阪府医師会生涯教育 2単位 申請中】

謹啓

時下、先生におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、このたび「第9回 枚方消化器疾患談話会」を下記のとおり開催いたしたくご案内申し上げます。先生方には大変お忙しい中、誠に恐縮ですが何卒ご参集賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

記

日 時：平成27年6月20日（土）16：00～18：00
場 所：ホテル京阪 京橋 7F「かがやきの間」
大阪市都島区東野田町2丁目1-38 TEL06-6353-0321

●製品紹介15：50～16：00
経口そう痒症改善剤「レミッチカプセル」大日本住友製薬株式会社

16：00～

《開会のご挨拶》枚方公済病院 院長 野原 隆司先生（ビデオ出演）

【一般講演】16：10～17：00

司会：枚方公済病院 副院長 田中 満先生

【消化器癌に対する粒子線治療について】

枚方公済病院 消化器内科 吉田 理人先生

【腹部良性疾患の腹腔鏡下手術】

枚方公済病院 外科 副部長 竹山 治先生

【特別講演】17：00～18：00

座長：枚方公済病院 消化器内科 部長 渡部 則彦先生

『がん免疫療法の進歩』

香川大学医学部附属病院 血液・免疫・呼吸器内科 教授 門脇 則光先生

◆終了後、情報交換会をご用意しております。なお、参加費として500円徴収させていただきます。

共催：枚方消化器疾患談話会／大日本住友製薬株式会社





消化器内科
吉田 理人

枚方消化器疾患談話会において、「消化器癌に対する粒子線治療について」というテーマで発表する場を頂きました。前勤務先（市立加西病院）が兵庫県立粒子線センターと地理的に近かったこともあり、粒子線治療と関わる機会がありましたので、僭越ながら粒子線治療の実際・効果・問題点についてお話をさせて頂きました。肝細胞癌や胆道癌、膵臓癌といった消化器癌は、切除不能局所進行例では依然として予後不良であることが多いですが、粒子線治療では良好な成績が得られており、治療の選択肢としてご考慮いただければと存じます。また、膵臓癌に対する粒子線治療の有害事象として消化管粘膜障害があり、前勤務先の消化器内科でまとめたデータを紹介させて頂きました。粒子線治療後の患者さんを診察するような機会に、お役に立つことができれば幸いです。先日はお忙しい中お集まりいただき、誠に有難うございました。今後とも何卒宜しくお願いいたします。



外科副部長
竹山 治

当科では腹部の悪性疾患（大腸癌や胃癌など）の他に、胆石症や虫垂炎、大腸憩室症、胃十二指腸潰瘍穿孔などの良性疾患に対しても腹腔鏡下手術を行っています。腹腔鏡下手術は開腹手術に比べて創が小さく、術後の消化管機能の回復が早いことが利点です。虫垂炎などは小さい開腹創で手術可能な場合もありますが、腹膜炎を伴うような虫垂炎では腹腔鏡で十分に腹腔内を観察、洗浄することが可能であり創感染のリスクも小さいメリットがあります。

枚方消化器疾患談話会では、最近当科で行った急性虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除術、鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（メッシュを使用した TAPP 法）、直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術（メッシュを使用した Wells 法）の3つの症例のビデオを供覧させていただきました。今後も腹腔鏡下手術のメリット、デメリットを考慮しながら積極的に行っていきたいと思えます。



消化器内科部長
渡部 則彦

先生方には日頃より消化器臨床にご協力いただき、誠にありがとうございます。去る6月20日に＜第9回枚方消化器疾患談話会＞を開催させていただきました。今回は特別講演で、最近話題の革新的進歩を遂げた癌に対する免疫療法を取り上げました。既存の分子標的治療薬を含む化学療法に加え、PD-1抗体治療に代表される癌免疫療法の登場により進行した癌患者さんでも治癒を目指した治療が可能となってきており、今後消化器癌分野でも重要です。

この談話会では、今後とも先生方のご意見、ご要望などをお聞きし、当院での消化器臨床の取り組みを取り上げるとともに、講師をお招きして消化器臨床に関連したトピックスについての講演を企画したいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

新任挨拶



腎臓内科
今牧 博貴

はじめまして、9月1日から赴任いたしました今牧 博貴（いままき ひろたか）と申します。大学では腎臓内科に所属させていただきました。腎臓内科を始めたきっかけは、研修医で消化器内科を勉強しているときに患者さんが急性腎不全になったことです。

腎臓内科としては1人なので出来ることは限られていますが、少しずつ枚方公済病院に貢献できるようにしていき、将来的には腎臓内科に興味を持つ若い研修医を少しでも増やしていきたいと思っています。

枚方公済病院はまったく初めてですので、何卒宜しくお願いします。

放射線技師から①

ご存知ですか？

生涯に乳がんを患う日本人女性は、現在約12人に1人とされています。^(※1) 乳がんを患う方は年々増え続けており、日本の乳がん罹患者は8万人を超えています。年齢別に見た場合、胃がんや肺がん、大腸がんのように年齢が高まるとともに増えるがんとは異なり、乳がんは30歳代から増加し始め、40歳代後半から50歳代前半にピークを迎える比較的若い女性が罹る病気です。2014年の乳がんによる死亡数（女性）は13,234人^(※2)で、ここ30年間で約3倍に増えています。これは食生活の変化（脂肪分の多い食事が増えている）や、社会生活の変化（未婚や高齢出産の女性が増えているなどホルモンバランスの影響）が原因だと考えられています。

乳がんは早期発見により適切な治療が行われると、治癒率が非常に高いがんです。早期発見、早期治療をする為に乳がん検診を受診して頂きたいところですが、残念ながら日本では国が定期的な検診受診を推奨しているものの、乳がん検診受診率はOECD（経済協力開発機構）加盟国30カ国の中で最低レベルに位置し、年々死亡率は増加傾向にあります。2013年において、日本での乳がん検診の受診率は^(※3) 全国平均が34.2%、大阪府では26.6%と全国平均を下回っており、厚生労働省の目指す「検診の受診率50%」にはまだまだ届いていません。早期発見、早期治療を行うためにも、定期的な乳がん検診と月に一度の自己検診を心掛ける事が大切です。

検診では、マンモグラフィ撮影が実施されていますが、ただ単に撮影をすればよいわけではありません。マンモグラフィが効果を発揮するためには、高度な読影力と高い撮影技術が不可欠です。すなわち、良い検診を受けるには、読影医師・撮影技師・撮影装置の精度管理が適切に行われている施設である必要があります。判断材料の

ひとつとして、『NPO法人 日本乳がん検診精度管理中央機構』の認定制度があります。当院では、この日本乳がん検診精度管理中央機構の検診マンモグラフィ認定読影医師による読影と検診マンモグラフィ撮影認定技師による撮影を実施しています。更に、昨年度12月より「マンモグラフィ検診施設画像認定」を取得し、より精度の高いマンモグラフィ撮影の為に日々、画質評価や装置の日常点検を行っております。マンモグラフィ検診施設画像認定は、施設画像評価委員会で書類審査、画像評価、ガラス線量計による線量評価から施設評価され、評価基準に合格した施設にのみ施設画像認定証が発行されます。

今回の施設認定取得により、さらに安全で質の高い検査と画像診断を受診者さまに提供できる環境が整ったと考えています。さらに、4月より技師が2人増え、3人の女性認定技師が撮影にあたりますので、身近な方にも乳がん検診の必要性をお伝え頂き、ぜひ多くの方に受診して頂きたいと思っております。

診療放射線技師 西浦 真理

(※1) 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターより

(※2) 厚生労働省人口動態統計【概数】より2015年6月5日発表

(※3) 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターより



エキスパートナーズ

12

病院では、様々な専門職種が連携し、協力し合って医療を提供しています。そうした医療チームの中で一番の大事帯は、間違いなく看護部です。このコーナーでは、そんな看護師の活動やニュースを主に取り扱っていきます。



◎看護外来をご存知ですか？

看護外来とは、ある分野において専門的な知識・技術を持った看護師（専門看護師、認定看護師など）が、患者さんやそのご家族から療養上の相談を受け、指導・ケアを行う外来のことです。看護外来には、医師や薬剤師、栄養士や医療ソーシャルワーカーと連携をとり、患者さんやそのご家族が退院後の療養生活や、疾病をコントロールしながら不安なく日常生活を過ごすことが出来るよう支援していく目的があります。

当院では、慢性心不全看護認定看護師が行う心不全外来や、がん化学療法看護認定看護師が携わる緩和ケ



ア外来といったメジャーな看護外来だけでなく、弾性ストッキング外来、糖尿病フットケアといった他院ではあまり開設されていない指導や、最近話題の禁煙外

来でも看護師がサポートを行っています。心不全、肝臓病や糖尿病といった特定の疾病をもった患者さんに、それぞれの疾病に関する情報を提供する教室も開催し、定期的に交流を持つことが出来るような活動も行っています。こうした活動は、外来看護師、病棟看護師といった所属の垣根を越え、看護部が一丸となって尽力してこそ出来るものだと感じています。当院の看護部は、様々な病期にある患者さんとそのご家族にとって、安全・安心を最優先した質の高い看護を提供できるようにと、看護部長を筆頭にして看護師1人1人が誠心誠意務めています。

1号館4階西病棟看護師 小川 誉世



がんサロン「くらわん家」開設します♪

がん化学療法看護認定看護師
正木 智美

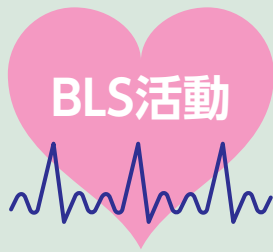
9月から当院でがんサロン「くらわん家」を開設します。

がんと告げられたときから始まる不安や悩みを、患者さんが仲間といっしょに語ることで、解決の糸口をみつけてもらうための場所です。患者さんからのご要望から開設を準備してきました。まずは月1回（第3水曜日）の開催で利用者は当院で治療・通院の病歴があるがん患者を対象としています。医師、メディカルソーシャルワーカーをはじめ、薬剤師、栄養士、看護師がバックアップをしていきます。

今後、利用者のご意見を参考にしながら、「よろず相談コーナー」や「ミニレクチャー」などの企画や、対象を「地域のがん患者」に拡げることができればと考えています。まずはがんの患者さんが「お茶でものみながら気軽にお話をする場」としての活用されることをめざしています。



後列左から
田中 満(副院長・外科医) 高橋 留佳(管理栄養士)
前列左から
中島 慶子(社会福祉士) 山本 浩之(薬剤師) 正木 智美(看護師)



枚方市を vol.4 助かる街に

検査科 数 圭介



こんにちは 枚方公済病院 検査科 数 圭介です。枚方公済病院で臨床検査技師として働いています。「生理機能検査（特に心臓超音波）の業務と救急室のお手伝い」に特に力を注いでいます。

BLS（一次救命処置）に興味を持ち始めたのが約10年前です。当院に北口循環器部長が赴任してきたころ、心臓の事などまったくわからない自分に、当時の松阪臨床工学技士長には心臓カテーテル室の業務を1から教えていただきました。そして北口先生には救急室やCCUで看護師とともに協働すること、病棟での業務改善、心臓リハビリなどまさに入口から出口までご指導いただきました。当時、設備はまだまだ十分とはいえない状態で、苦勞が絶えない日々でしたが自分にとっては本当に恵まれた環境でした。

そんな中、循環器救急に携わるとどうしても出会うのが心肺停止（特に心臓突然死）です。今までどんな心筋梗塞、心不全も治療してきた最強メンバーでもまったく歯が立ちません。街中で起こる心臓突然死はそばにいる人にしか救えない事実を遅ればせながら知ることになりました。

心臓が正常に機能しなくなると、ボタンと倒れます。倒れてから3分以内にそばにいる人が①救急車とAEDの要請、②胸骨圧迫、③AEDの使用を行う事が救命率を向上させます。現在日本では毎年7万人の心臓突然死がありますが、1割弱の方しか救えていないのは、迅速な救命処置が行われていないことが最大の原因です。市民の皆さんが事実を知り、救急車がくるまで胸骨圧迫さえ行ってくれたら、助かる人はグンと増えます。さらに比較的若い方（30-50代）で多いことから、社会的損失や一家庭における悲しみなどを考えると医療従事者が無



視できない問題であると考えています。

多くの病院ではインストラクターが医療従事者に講習を行っていますが、それだけでは心臓突然死を救うことができません。市民への普及が最大のテーマであるのはよく知られていることです。しかし、病院の業務として市民への普及活動をしている施設があまりにも少なく、救急室で受け入れだけを行っているのが現状であろうと思われます。助かる人とそうでない人の振り分け作業、そして同じことの繰り返し…

何とか世の中を変えたい（←大げさですが、少なくとも自分の住んでいる街くらいは…）と思い、職員のみなさん、近隣救急隊、女性消防団、医師会、、、多くの方々のご協力が得られ活動が8年以上継続できています。ありがとうございます。

この活動が評価され、枚方市では小学5年生に必ず簡易心肺蘇生講習（PUSH講習）が消防署員により行われるようになり、2015年4月にはコンビニにAED設置条例も策定されました。

10年たてば成人する子供たちに未来を託したいのと、子供から大人への広がりも期待しています。



少しの勇気で救える命があること

医療従事者だけでなく、市民（特に子供）への普及が、あなたの大切な人を救うことになるかもしれません。

普及を地域で行うことで、その地域の救命率が向上します。多くの病院、医療従事者が普及活動に理解を示し、一歩踏み出していただけると願っています。





枚方公済病院 副院長
田中 満

9月に入りましたが暑い日が続いております。当院でも連日熱中症の救急搬送が続いております。皆様も熱中症にならないよういろいろ対策をしておられると思います。私は京都市内に住んでいますが、京都の暑さも半端なものではありません。先日も39.1度を記録し自宅で愛犬とグッタリしておりました。一方自宅近くの嵐山では炎天下大勢の外国人観光客であふれておりました。「この暑い中よく外でうろうろしているなあ」と思って彼らの暑さ対策に興味を持ちました。服装は上はTシャツかタンクトップ、下は半ズボンかホットパンツで肌を思い切り露出しています。日焼けは気にしていないようです。しかし、頭部に目をやると必ず麦藁帽などの帽子をかぶっています。私たちが子供の頃から日向に出るときは帽子をかぶるよう注意されてきました。夏の日差しの中では日射病対策に帽子が必要なのを再認識しました。小生も髪の毛が薄くなり日差しの影響が強くなってきました。そろそろパナバ帽でも買いに行きますか。

総合診療と
ERを考える会



6月20日(土)
「総合診療とERを考える会」
を開催しました。

参加者
計45名



枚方公済病院 院長
野原 隆司

理念と基本方針

理念
医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

編集後記

まだまだ暑い日が続いており、夏バテで食欲不振になられている方も多いのではないのでしょうか。

そこで、今回は「枚方消化器疾患談話会」など旬な話題をタイムリーにお届けしたいと思い、消化器科をメインとして編集させていただきました。

人は食べることによって、命と健やかな健康を維持しています。毎日のことだからこそ、心と身体においしい食事を楽しむことが大切です。食通の私にとって「食」は命の源だけでなく、人とひととのコミュニケーションを図るためのツールでもあるからこそ、健康を維持できるものだと思います。

最近では、2025年問題など様々な課題があり、コミュニティ再生における体制の再構築が重要視されております。本院でもより地域に根ざした取り組みや情報を発信していきますので、今後ともご支援・ご協力の程よろしくお願い致します。

地域医療連携室 青木 宏倫



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kkh-hirakoh.org/>